

〈編集後記〉

『相愛国文』第六号をお届けする。本号には専任教員四名による論考・翻刻等、日頃の研究成果を収載することができた。本誌掲載論考に対する忌憚なき批評の寄せられんことを切に希望したい。

一年を振り返りみるに、様々な「変動」があつたように思う。昨年度末のことになるが、非常勤講師としてご来校願つていた福本良二先生が急逝された。御著「芭蕉・嵐雪・蕪村論考」の、上梓を確かめられた直後であつたと聞く。本学に三十年以上もご出講くださった先生の、ご冥福を念じあげたい。

また、国文学科では近世文学担当の土井順一助教授が龍谷大学へ転出、坂本恵子助手が依願退職され、かわりに山本和明、辻井陽子がそれぞれ着任することとなった。

入試制度の改革のみならず、今、多くの大学・短大の抱えている問題等を含め、いろんな意味での「変革」を越えた一年であつた。そうした状況の中で、更なる研鑽をつむこと

によつて、『相愛国文』のいつその充実を期すことにしたい。

(Y)

〈執筆者一覧〉

鈴木徳男	本学国文学科助教授
山本和明	本学国文学科専任講師
鳥井正晴	本学国文学科助教授
北谷幸册	本学国文学科助教授

相愛国文 第六号

平成五年三月二十五日 印刷

平成五年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒559 大阪市住之江区南港中四―四―一

印刷所 和泉書院
〒543 大阪市天王寺区上汐五丁目三―八

☎ 〇六一七七一―一四六七